

琥珀こはくの砂

この春、浜辺でコハクを拾いました。

コハクは、大昔の樹脂(松やニなどの化石です。黄色やオレンジ色に近い褐色で、透明や半透明。きれいなものは磨かれて宝石になりますし、ときどき昆虫が中に入ったコハクもあります。春の石狩浜で拾ったものは赤っぽいものも多く、一番大きいものは2 cm くらいの大きさです。

樹脂の化石といつても、コハクは普通の化石と違



石狩浜で拾ったコハク。
赤みの強い琥珀色です。

い、石(岩石や鉱物)ではありません。樹木からしみ出した樹脂は、次第に油やアルコールのような蒸発しやすい成分を失っていきまます。さらに土に埋もれ、地層に埋没し、何百万年もの長い年月がたつと、最終的にもうこれ以上は変化しない、安定した物質になります。それがコハクです。

海岸に漂着するコハク。世界では、ポーランドやリトアニアなど、バルト海沿岸のものが有名です。バルトのコハクは、海が荒れた時に海底の地層から巻き上げられ、浜に打ち上がるそうです。それでは、石狩浜に漂着するコハクは、いったいどこから来るのでしょうか。そのヒントは「石炭」です。

石狩浜や厚田区の無煙浜には、たくさん真つ黒な石炭が漂着します。これらは石狩川やその支流の夕張川、空知川などの流域にある炭田地帯から流されてくるものと考えられています。石炭は樹木の化石、コハクは樹脂の化石。どちらも同じ、大昔の木。つまり、石炭があるところにはコハ

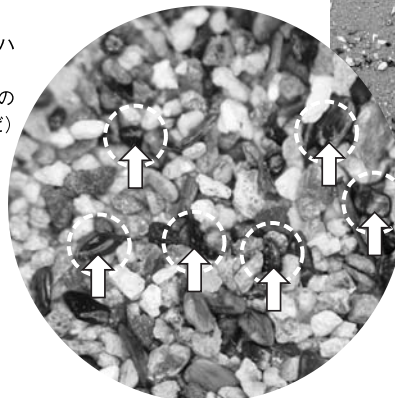
クがある可能性が高いのです。実際、浜辺の漂着石炭をよく見ると、ときどきコハクが黄色い筋になって入っていることもあります。石狩浜のコハクは、おそらく石炭と同じように石狩川の上流から流されてきたものなのでしょう。

石狩浜でコハクが採れる——。でも、コハクなんて見つからないよ、という人がほとんどだと思います。いえいえ、そんなことはありませんよ。砂をちよつと手にすくつて、よく見てください。砂浜全体は灰色でも、砂の一粒一粒はいろいろな色をしていることが分かるでしょう。白、黒、透明、茶色……。少し透き通った、茶色い粒がありませんか? そう、それがコハクです。実は石狩浜の砂には、コハクの砂——宝石の砂が、たくさん入っているのです。

(志賀健司)



粒状に黒く見えるのは、浜辺に漂着した大量の石炭です(厚田区無煙浜)。石狩川の上流から流れてくるようです。



石狩浜の砂を顕微鏡で見ると、細かいコハクがたくさん入っていることが分かります。今、資料館では、コハクの入った石狩浜の砂のほか、珍しい砂(星砂、緑色の砂など)を顕微鏡で見ることができます。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
✉ bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
■石狩海浜植物保護センター ☎60-6107
✉ ihama@city.ishikari.hokkaido.jp